



令和3年度

宮城県スポーツ少年団

研修会

これからの地域スポーツを考える!

令和4年2月27日(日)

13:00~16:45

仙台ガーデンパレス2階鳳凰

仙台市宮城野区榴岡4丁目1-5

主催：公益財団法人宮城県スポーツ協会



宮城県スポーツ少年団

協力



みやぎ広域スポーツセンター



日本スポーツ少年団指導者綱領



1. わたくしたちは、次の時代を担う子供たちの健全育成のために努力します。
1. わたくしたちは、スポーツのもつ教育的役割をはたすために努力します。
1. わたくしたちは、子どもたちのもつ無限の可能性を開発するために努力します。
1. わたくしたちは、つねに愛情と英知をもって子どもたちと行動するよう努力します。
1. わたくしたちは、スポーツを愛する仲間とともに世界の平和を築くために努力します。



日本スポーツ少年団団員綱領



1. わたくしたちは、スポーツをとおして健康なからだと心を養います。
1. わたくしたちは、ルールを守り、他人に迷惑をかけない、りっぱな人間になります。
1. わたくしたちは、スポーツによって、自分の力を伸ばす努力をします。
1. わたくしたちは、スポーツのよろこびを学び、友情と協力を大切にします。
1. わたくしたちは、スポーツをとおして世界中の友だちと力をあわせ、平和な世界をつくれます。

令和3年度

宮城県スポーツ少年団研修会開催要項

- 1 趣 旨： スポーツ少年団登録者の資質向上とスポーツ少年団活動の活性化を図り、少年団の組織強化と活動促進のための事業を開催する。
 また、地域スポーツの核であるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブが地域で抱える課題の解決方法を模索し、今後の地域スポーツのあり方について検討することを目的とする。
- 2 主 催： 公益財団法人宮城県スポーツ協会 宮城県スポーツ少年団
- 3 主 管： 宮城県スポーツ少年団指導者協議会
- 4 協 力： みやぎ広域スポーツセンター
- 5 期 日： 令和4年2月27日（日） 13：00～16：45
- 6 会 場： 「仙台ガーデンパレス」2階 鳳凰（ほうおう）
 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡四丁目1番5号
 TEL.022-299-6211
- 7 参加対象： 宮城県スポーツ少年団関係者
 総合型地域スポーツクラブ関係者
- 8 定 員： 会場来場定員： 100名（市町村・クラブ各3名程度）
 WEB配信定員： 90名
 ※各申込、先着順とさせていただきます。
 ※当日は、配信内容をレコーディングさせていただきます。
- 9 申 込 み： 令和4年2月18日（金）までに下記あて申込みこと。
 〒981-0122 宮城県宮城郡利府町菅谷字館40-1
 公益財団法人宮城県スポーツ協会 スポーツ推進課
 T E L 022-349-9656 / F A X 022-356-8267
 E-mail : mjsa@mspf.jp (FAX・E-mail可)
 申込フォーム：<https://forms.gle/ZMv9Z31nLeoZUFsZ6>



10 日 程

日 程 表	
12:30～13:00	受 付
13:00～13:15	【開会行事】
13:20～14:50 (90分)	【I部：講 演】 「子どもの健全な発達と成長を支えるスポーツ環境の実現 ～すべての子どもが、安心してスポーツを楽しめるように～」 アイ・プラス株式会社 代表取締役 吉田 繁敬氏
14:50～15:00	休 憩
15:00～16:30 (90分)	【II部：パネルディスカッション】 パネリスト（地域スポーツの取り組みについて） ●一般社団法人スポーツリンク白川 クラブマネジャー 渡辺 靖代氏 ●仙台市立将監中学校 主幹教諭 高久 達央氏 ●仙台大学 スポーツ局事務課 スポーツ・アドミニストレーター 大友 健夫氏 ●エスペランサ登米FC 指導者 木村 健喜氏
16:30～16:45	【閉会行事】

10 新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応について（重要）

(1) 以下に該当する方は、当日の参加をご遠慮ください。

- ①参加者の同居家族や身近な方に体調不良者がいる場合
(発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- ②参加者の同居家族や身近な方に感染が疑われる方がいる場合
- ③研修会開催前14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等へ渡航又は当該在住者と濃厚接触がある場合
- ④新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、完全オンライン開催になる場合がございます。実施形態の変更は、2月25日までに本協会ホームページに掲載いたします。本協会ホームページを必ずご確認ください。

https://msports.mspf.jp/news_event/suposyoukensyu/

(2) 当日の対応について

- ①研修会当日は、自宅からの移動を含め、ご来場者同士の飲食等はお控えくださいますようお願いいたします。
 - ②当日の体温が37.5度以上又は平熱比一度を超過している場合は参加をご遠慮ください。
 - ③研修会当日は、マスクの着用をお願いします。
 - ④他の参加者等との距離を確保し、参加者同士の会話は控えるようご協力下さい。
 - ⑤こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒をおこなうこと。
 - ⑥感染拡大防止のため主催者が決めたその他の措置を遵守し、指示に従うようご協力願います。
- (3) 新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合には、下記に連絡し、関係機関の指示に従ってください。

【 連絡先 】

■宮城県健康電話相談口（コールセンター）

電話番号：022-398-9211

受付時間：24時間対応

■主催者

公益財団法人宮城県スポーツ協会

宮城県スポーツ少年団

〒981-0122 宮城県宮城郡利府町菅谷字館40-1

宮城県総合運動公園

電話番号：022-349-9655

FAX 番号：022-356-8267

Mail miyagi-suposho@mspf.jp

■新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の利用にご協力願います。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html

* App StoreまたはGoogle Playで「接触確認アプリ」で検索してインストールしてください。

ScanLife

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.gn.mhlw.cond1Scanner>



<https://apps.apple.com/jp/app/id1516264458>



心理カウンセラー

よしだ しげよし
吉田 繁敬



◆プロフィール

1969年、東京都生まれ。91年法政大学経済学部卒業。心理カウンセラー、ジュニアスポーツ指導員、中級障害者スポーツ指導員、剣道錬士六段。国内及び海外研修を経て、名古屋で心理カウンセラー養成校代表を務める。その後、公益財団法人愛知県体育協会勤務（～2015/3）。現在は独立し、企業研修、地域子育て支援講座、大学でのキャリア支援講義などで、「楽しく、分かりやすく」をモットーに実際に使える心理学の普及に努める傍ら、子どもたちの心と体を育む楽しい運動遊びプログラムの普及に努めている。

◆役職

- ・アイ・プラス株式会社 代表取締役
- ・公益財団法人日本スポーツ協会スポーツ医・科学委員会研究班員
- ・公益財団法人日本スポーツ協会 ACP 普及・啓発プロジェクト班員
- ・国立大学法人 静岡大学非常勤講師
- ・愛知県スポーツ少年団常任委員

◆著書

「子どもの指導を考えるー子どもたちは指導者を選べない だからこそ、指導の目的を明確に！ー」（コーチングクリニック 2014.9月号 ベースボールマガジン社）、「No 怒鳴るー感情のコントロールと伝達ー」（ソフトボールマガジン 2015.7月号 ベースボールマガジン社）、「道場のチームマネジメント」（月刊 JKFan 2017.8月号 株式会社チャンプ）、「空手ママと空手パパの家練マニュアル ころろ編」（月刊 JKFan 2018.10月号 株式会社チャンプ）「アクティブ・チャイルド・プログラム 子どもの心と体を育む楽しい遊び（共著）」（ベースボールマガジン社）、「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム（共著）」、「社会心理的側面の強化を意図した運動・スポーツ遊びプログラムの開発および普及・啓発（共著）」（日本スポーツ協会）、「子どものプレイフルネスを育てる プレイメーカー（共著）」（株式会社サンライフ企画）など

◆受賞歴

第18回秩父宮記念スポーツ医・科学奨励賞（2016.3）

スポーツの意義

～各年代にとってのスポーツの意義とは～

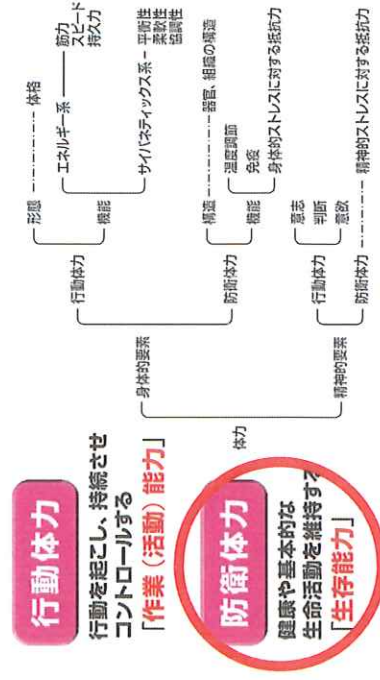
- ① 60代以上にとってのスポーツの意義とは？
- ② 40代、50代にとってのスポーツの意義とは？
- ③ 20代、30代にとってのスポーツの意義とは？
- ④ 10代まで(発育・発達期)のスポーツの意義とは？

子どもの健全な発達と成長を支えるスポーツ環境の実現
 ～すべての子どもが、安心してスポーツを楽しめるように～

幼少期における身体活動・運動・スポーツの意義

- ① 体力・運動能力の向上
調整力、危険回避能力
- ② 健康的なからだの育成
生活習慣、丈夫なからだ
- ③ 意欲的なこころの育成
意欲、有能感
- ④ 社会適応力の発達
感情のコントロール、友人関係
- ⑤ 認知機能の発達
脳の発達、空間認識能力

体力の概念



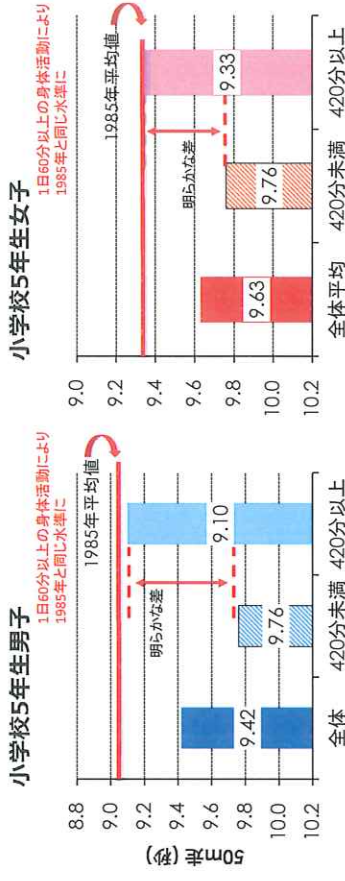
子どもの体力や身体活動の現状

1週間の総運動時間の分布 (小学5年生)



子どもの体力や身体活動の現状

身体活動量と体力の関係 (50m走)



子どもの体力や身体活動の現状

体力低下

動きの質の低下

- 身のこなしが下手、動きが未熟
...自分の身体をうまくコントロールできない

日常動作・スポーツ動作に反映

適切な量と質を満たした身体活動の重要性

基本的な動きの獲得・動きの多様化

多様な動きを経験した結果として、様々な動きを獲得し身につける



子どもの体力や身体活動の現状

自発的な運動の機会が減っている

「特定のスポーツだけ取り組む」

- 多様な動きを身につけることが大切
- 子どもが興味をもって運動・遊びに自発的に関わることが重要

子どもの体力や身体活動の現状

・子どもたちが本当に望むスポーツ活動とは

ルールにこだわり過ぎず、自発的な運動を育むような環境づくり、
仕掛け

- 子どもたちにとって楽しく興味をもてる活動プログラムの提供
- 一人でも多くの子どもにもスポーツの遊びを提供する

子どもの体力や身体活動の現状

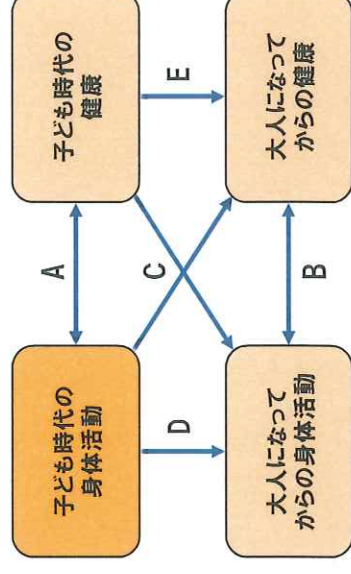
スポーツの厳しさや苦しさが際立った指導

競技化が進み、活動種目が単一化
→ 勝つことだけを求め、不適切な指導



燃え尽き症候群
運動嫌いの子どもたち

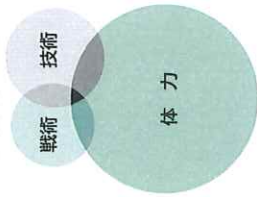
身体活動・健康状態の持ち越し効果



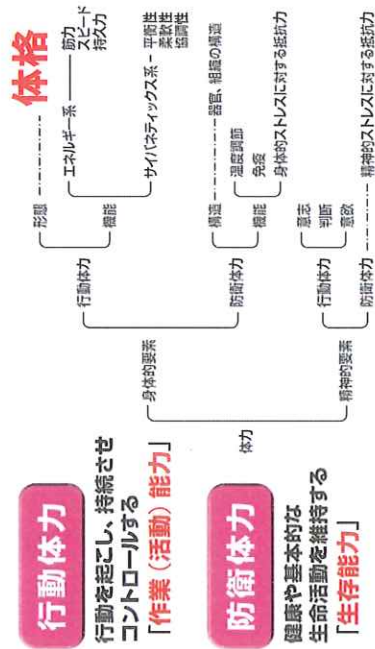
Blair et al.(1989)一部改変

発育・発達の特徴を理解した適切な指導

早熟タイプ OR 4~6月生まれ
の競技力の構造



体力の概念



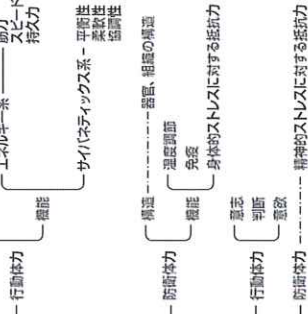
行動体力

行動を起こし、持続させ
コントロールする
「作業(活動)能力」

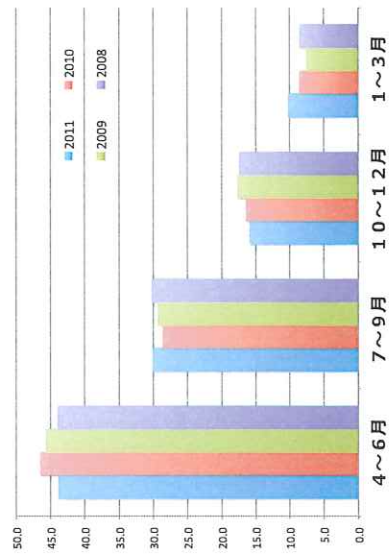
防衛体力

健康や基本的な
生命活動を維持する
「生存能力」

体格



小学生交流大会出場者の生まれ月分布



日本陸上競技連盟 (2013)

全国大会出場者および代表選手の生まれ月分布

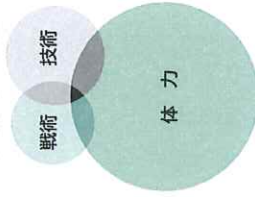


相対年齢効果は年齢が小さい
ほど顕著に現れる。
→高校期以降にもその影響が
残る傾向が認められる。

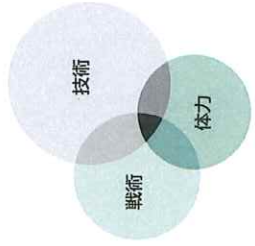
日本陸上競技連盟 (2019)

発育・発達の特徴を理解した適切な指導

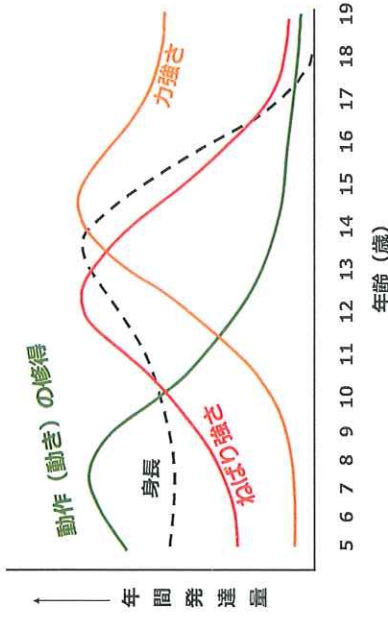
早熟タイプ OR 4~6月生まれ
の競技力の構造



成長後期の競技力の構造



体力・運動能力要素はいつ発達するか



宮下 (1980) 一部改変

幼少期における身体活動・運動・スポーツの意義

- ① 体力・運動能力の向上
調整力、危険回避能力
- ② 健康的なからだの育成
生活習慣、丈夫なからだ
- ③ 意欲的なこころの育成
意欲、有能感
- ④ 社会適応力の発達
感情のコントロール、友人関係
- ⑤ 認知機能の発達
脳の発達、空間認識能力

心理的能力の向上を支えるスポーツ指導者

認知能力

数学の公式を暗記したり、
漢字を覚えたりするといっ
た能力

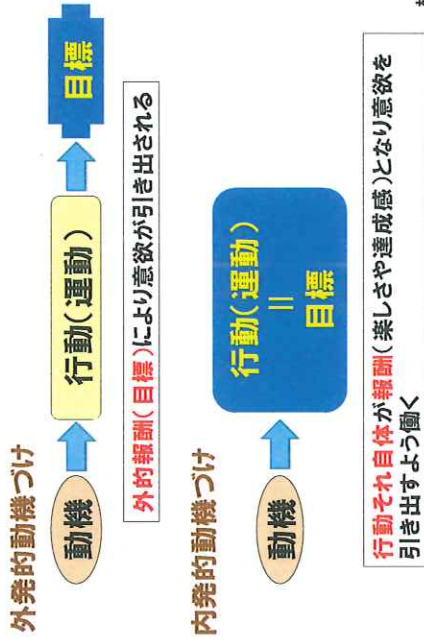


非認知能力

目標に向かって頑張る力、
ほかの人とうまくかかわる力、
感情をコントロールする能力

非認知能力を高めるための活路は、
「地域のスポーツ」の中にあると注目されている

動機づけの分類



運動有能感とは



ファシリテーションの重要性

子どもたちから引き出されるもの



令和3年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果

【体力合計点】

- 体力合計点については、令和元年度に比べ、**小中男女ともに低下**した。
- ※ 令和2年度は、コロナの影響により調査を中止した。

【低下の要因】

- 低下の主な要因としては、令和元年度から指摘された、**①運動時間の減少**

- ② **学習以外のスクリーンタイムの増加**

※ スクリーンタイム…平日1日当たりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間

- ③ **肥満である児童生徒の増加**

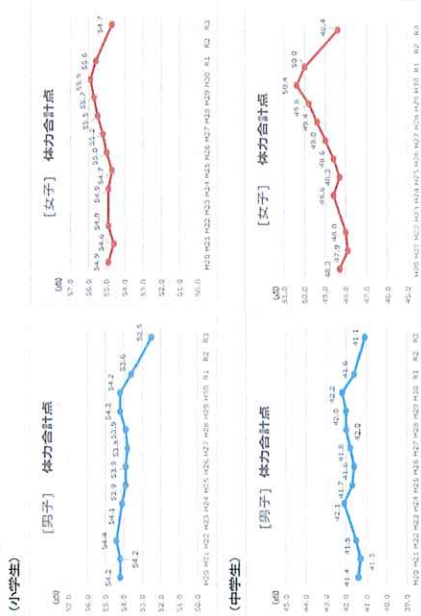
について、**新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」という。)**の影響を受け、更に拍車がかかったと考えられる。

また、コロナの感染拡大防止に伴い、学校の活動が制限されたことで、**体育の授業以外での体力向上の取組が減少**したことも考えられる。

(スポーツ庁HPより)

令和3年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果

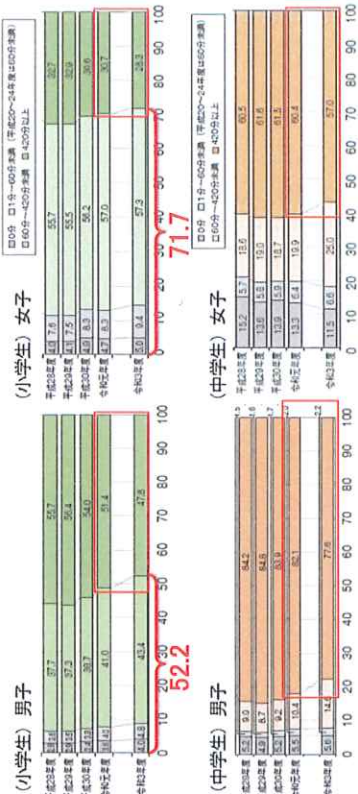
体力合計点の状況



(スポーツ庁HPより)

令和3年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果

児童生徒の運動時間(体育の授業を除く。)

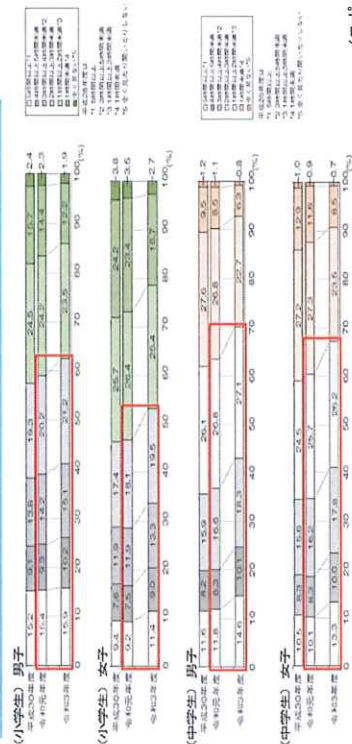


(スポーツ庁HPより)

令和3年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果

児童生徒の生活習慣(スクリーニング)の状況

学習以外のスクリーニング時間は、休憩時間が2時間以上の割合が増加しており、特に男子が顕著化している。

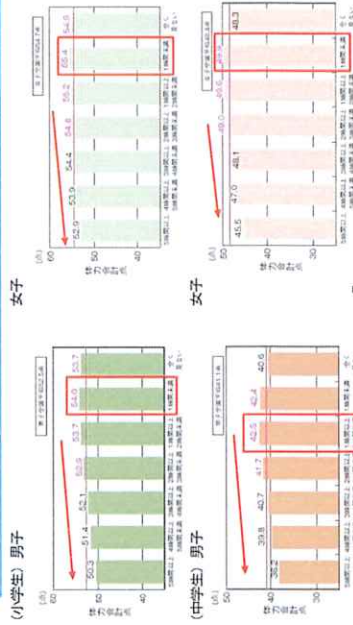


(スポーツ庁HPより)

令和3年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果

スクリーニング以外のスクリーニング時間と体力合計点との関係

学習以外のスクリーニング時間が長時間になると、体力合計点が低下する傾向がみられる。



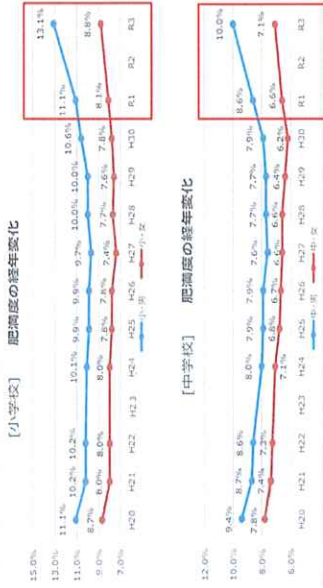
(スポーツ庁HPより)

令和3年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果

児童生徒の体格の状況

小・中学生の男女ともに、肥満の割合が増加。特に小学生男女、中学生男子は過去最大の数値。

○肥満である児童生徒の割合の経年変化



(スポーツ庁HPより)

令和3年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果

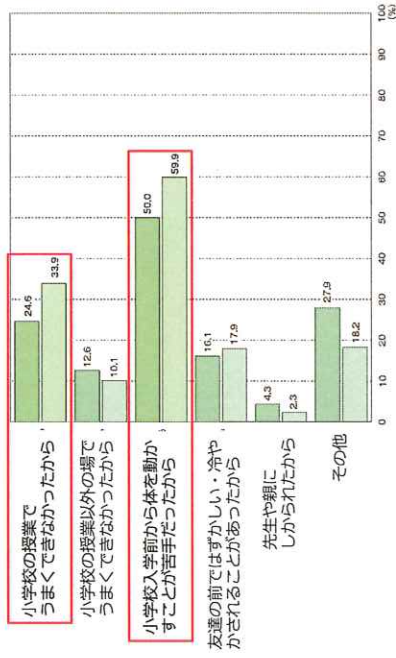
【今後について】

- まずはコロナの感染拡大防止に努めつつ、**体育の授業等においてできることから実施していくことが重要**。その上で、コロナの感染状況を踏まえ、スポーツ庁としては、**子供の体力向上を図るために、運動やスポーツをすることが好きな子供たちの育成を目指した体育授業の工夫・改善等の取組を一層推進するとともに、幼児期からの運動習慣の形成に取り組んで参ります。**

(スポーツ庁HPより)

運動(遊び・スポーツ)が足りない理由

何がきっかけで足りいになりましたか？



平成26年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査(文部科学省)

動きの質を高める運動プログラム

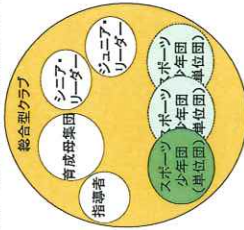


スポーツ少年団と総合型クラブの連携イメージ



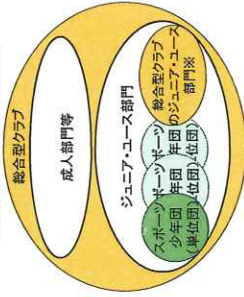
各単位団や各総合型クラブが連携するにあたっては、概ね以下のタイプが想定されます。このうち、本プランに基づき寄望目標として理想的なタイプはタイプIIをイメージしています。

タイプI
「スポーツ少年団の総合型クラブ化」



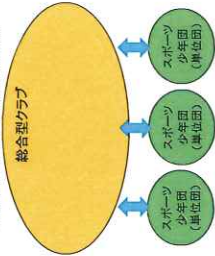
「1つの単位団が、又は「複数の単位団が統合し、育成母集団、シニア・ジュニアリーダー等を含め、活動種目や団員年齢の範囲を広げ、総合型クラブ化する」

タイプII
「総合型クラブとの統合化」



「1つの単位団が、又は「複数の単位団が統合し、総合型クラブのジュニア部門として位置する」

タイプIII
「総合型クラブとの連携化」



「1つの単位団、又は「複数の単位団」が、従前通り総合型クラブとは別団体の立ち位置で連携する」

例：単位団の団員募集等総合型クラブが代行、イベントを共同で実施 等

子どもの権利とスポーツの原則 Children's Rights in Sport Principles



- ◆ たまにはみんなと遊びたい。
- ◆ 遅くまで練習しなげや、褒めてくれないの？
- ◆ コーチが怖いと、練習も怖くなる。
- ◆ スポーツにルールがあるように、指導にもルールが必要だ。
- ◆ 私たちは、スポーツを楽しむ権利がある。
- ◆ 私たちは、私たちのために、スポーツをするんだ。

子どもの権利とスポーツの原則



<https://childinsport.jp/>

- スポーツ団体とスポーツに関わる教育機関、スポーツ指導者に期待されること 01 02 03 04 05 06
- スポーツ団体を支援する企業・組織に期待されること 07 08
- 成人アスリートに期待されること 09
- 子どもたちの保護者に期待されること 10

子どもの権利とスポーツの原則

Children's Rights in Sport Principles



世界では毎日、何百万人もの子どもたちがスポーツをしています。レクリエーション(遊び)として楽しむ子もいれば、将来の職業として競技スポーツを選ぶ子もいます。

遊びやスポーツは、健全な成長に欠かすことができない「子どもの権利」です。すべての子どもが、安心してスポーツを楽しめるように。

『子どもの権利とスポーツの原則』は、スポーツに関わるすべての方々に、子どもの健全な発達と成長を支えるスポーツ環境の実現を呼びかけます。

「オリンピックイズム」

「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍など様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」

(ピエール・ド・クーベルタン)

スポーツ少年団の理念

「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する」

「スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる」

「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」

●1964年のレガシー ～スポーツ少年団は1964年東京オリンピック大会を契機に誕生～

・1960年5月：青少年に対するオリンピック啓発運動推進のための機関設置（JOC総会）

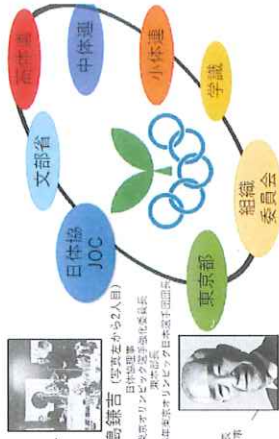
・1960年5月：オリンピック青少年運動の推進（日本体育協会）

・1960年6月：オリンピック青少年運動推進世話人会
→オリンピック青少年運動推進懇談会
12月：オリンピック青少年運動推進準備委員会

・1960年6月：スポーツ少年団結成準備（日本体育協会）

・1961年12月：スポーツ少年団の創設を承認

・1962年6月：スポーツ少年団の創設



大島録吉

（学芸座から2人目）
東京オリンピック青少年運動推進世話会長
東京体協会長
1964年東京オリンピック日本選手団団長



大島録吉

（学芸座から2人目）
東京オリンピック青少年運動推進世話会長
東京体協会長
1964年東京オリンピック日本選手団団長



竹田恒徳

日本体育協理 日本体育協会
JOC専任員 ICCE専任員

スポーツ少年団は1964年東京オリンピック大会開催を前に、青少年に対してオリンピックへの関心を高めることを目的とした「オリンピック青少年運動」の一環として誕生しました。「オリンピック青少年運動」を推進する世話人会は日本体育協会、文部省、高体連、中体連、小体連、東京都、東京府、オリンピック組織委員会、学識経験者等のメンバーにて構成されてきました。

Japan Junior Sports Clubs Association

ご清聴ありがとうございました。



令和3年度

宮城県スポーツ少年団研修会パネルディスカッション

【コーディネーター】



●アイ・プラス株式会社 代表取締役 よしだ しげよし 吉田 繁敬氏

1969年、東京都生まれ。91年法政大学経済学部卒業。
心理カウンセラー、ジュニアスポーツ指導員、中級障害者スポーツ指導員、剣道錬士六段。国内及び海外研修を経て、名古屋で心理カウンセラー養成校代表を務める。その後、公益財団法人愛知県体育協会勤務（～2015/3）。現在は独立し、企業研修、地域子育て支援講座、大学でのキャリア支援講義などで、「楽しく、分かりやすく」をモットーに実際に使える心理学の普及に努める傍ら、子どもたちの心と体を育む楽しい運動遊びプログラムの普及に努めている。

【パネリスト】



●仙台市立将監中学校 主幹教諭 たかく たつひろ 高久 達央氏

令和2年度まで指導主事として仙台市教育委員会総務企画部健康教育課に勤務。令和2年度に設置した「スポーツ少年団活動のあり方検討委員会」の委員として、スポーツ少年団活動のガイドライン作成に助言をいただく。

現在は、仙台市立将監中学校の主幹教諭として、中学校に在籍。学校現場の立場から地域スポーツクラブに求める「中学校運動部活動」との連携について情報提供をいただく。



●エスペランサ登米FC 指導者 きむら けんき 木村 健喜氏

宮城県スポーツ少年団常任副委員長。

登米市スポーツ少年団本部長。

エスペランサ登米FCの指導者としてスポーツ少年団活動に携わる。団には、小学生・中学生の団員が在籍し、小・中学生の活動の連携や運営について情報提供をいただく。



●一般社団法人スポーツリンク白川

クラブマネージャー わたなべ やすよ 渡辺 靖代氏

スポーツリンク白川は、「チャオ白川スポーツクラブ」「白川町体育協会」「白川町スポーツ少年団」の3団体が1つになった総合型クラブ。20年に渡って中学校部活動への取り組みも積極的に行ってきた。

子どもたちに豊かなスポーツ環境を残すことを目標に、クラブ運営にあたっている。総合型地域スポーツクラブ・中学校部活動・スポーツ少年団の連携方策についてスポーツリンク白川の設立事例を踏まえ、情報提供をいただく。



●仙台大学 スポーツ局事務課

スポーツ・アドミニストレーター おおとも たてお 大友 健夫氏

大学スポーツ協会（通称：UNIVAS）と連携し、スポーツにおけるブランディング促進や、部活動の管理・運営等を手掛ける仙台大学スポーツ局に在籍。

令和3年度スポーツ庁委託事業として、産学官によるコンソーシアムを形成し、仙南地域における中学校部活動支援事業の開始に携わっており、その事業について情報提供をいただく。

講演Ⅱ【パネルディスカッション】

テーマ
「地域スポーツの取り組みについて
～運動部活動の地域移行について考える～」

コーディネーター
アイ・プラス株式会社 代表取締役 吉田 繁敬

スポーツ界の動き

▶ 部活動改革に関する国の動向



少子化・人口減少の加速化

- 学校数の減少、それ以上に進む少子化で生徒数/学校はさらに小さくなる中、部活動は持続困難。

中学生世代の今後の人口動向の推計



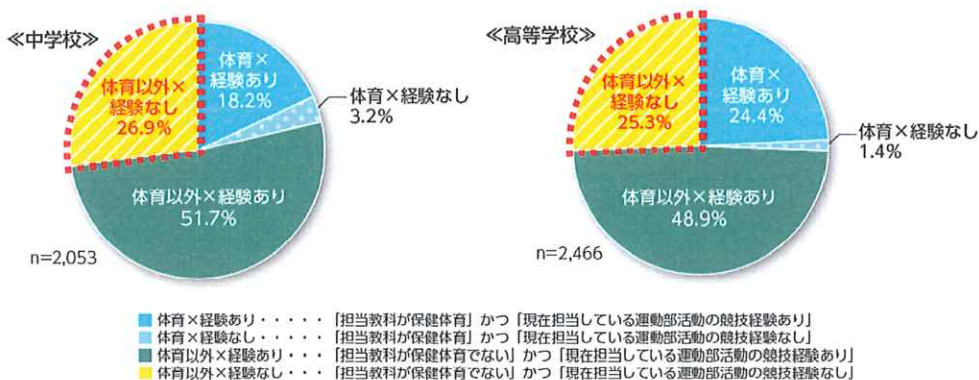
中学生世代の人口数は4月1日時点において12～14歳の者の数
 厚生労働省作成「人口動態統計」月報（2017年5月）により算出するとともに、将来の出生者数について、国立社会保障・人口政策研究所作成「日本の将来推計人口（平成29年推計）詳細結果表」の「1. 出生中位（死亡中位）推計」を基に算出。

（スポーツ庁 運動部活動の地域移行に関する検討会議 参考資料集）

運動部活動を担当する教員の競技経験（R3）

- 担当教科が保健体育ではなく、かつ、担当部活動の競技の経験がない教員の割合は、中学校で26.9%、高等学校で25.3%で経験がなくとも指導せざるを得ない状況。

【図1】 担当教科×現在担当している競技の過去経験の有無



（出典）（公財）日本スポーツ協会「学校運動部活動指導者の実態に関する調査（令和3年7月）」

（スポーツ庁 運動部活動の地域移行に関する検討会議 参考資料集）

1. 部活動改革に関する国の動向

(2)部活動改革の概要

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要

部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や特法法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

具体的な方策

I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保
(育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の活用の活用)
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

II. 合理的で効率的な部活動の推進

- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においては各都府県の考え方の趣向を踏まえ、取組を実施。
※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。

※ 出典 スポーツ庁HP URL: https://www.mext.go.jp/sports/content/2020932-spt_ssaishu01-000209706_1.pdf

(令和3年1月13日付 JSPO「部活動改革に関する情報提供」資料から抜粋)

3

運動部活動の地域移行に関する検討会議（スポーツ庁）

趣旨

運動部活動の地域への移行を着実に実施するとともに、地域におけるスポーツ環境を整備し、子供たちがそれぞれに適した環境でスポーツに親しめる社会を構築することを目的として、運動部活動の地域における受け皿の整備方策等について検討する。

検討事項

- 1) 地域における受け皿の整備方策
- 2) 指導者の質及び量の確保方策
- 3) 運動施設の確保方策
- 4) 大会の在り方
- 5) 費用負担の在り方 等

取進め

令和3年10月7日 第1回会議開催
令和4年7月を目途に「提言」をとりまとめる予定

秋山 克巳	茨城県教育庁学校教育部保健体育課 課長
池田 敬司	一般社団法人大学スポーツ協会 専務理事
石井 朗生	公益財団法人日本陸上競技連盟 経営企画部常務部長
石川 智雄	長岡市教育委員会学校教育課企画推進係 総括主査
石塚 大輔	スポーツデータバンク株式会社 代表取締役
市川 嘉裕	公益財団法人日本中学校体育連盟 副会長
内田 匡祐	東海大学体育学部体育学科 教授
遠藤 啓一	日本スポーツ少年団 副本部長
大川 敬	岐阜県清流の国推進部地域スポーツ課 課長
影山 雅永	公益財団法人日本サッカー協会 技術委員会委員、技術委員会育成部会長、ユース育成ダイレクター
金沢 敬	公益財団法人日本スポーツ協会 事務局次長
齊藤 正高	全日本中学校長会給与対策部会 部長
佐藤 博之	公益社団法人日本PTA全国協議会 副会長
末富 芳	日本大学文理学部教育学科 教授
友添 秀剛	公益財団法人日本学校体育研究連合会 会長
西 政仁	生駒市生涯学習部スポーツ振興課 課長
松村 剛	一般社団法人日本フィットネス産業協会 専務局長
山本 明	公益財団法人日本バスケットボール協会基盤強化グループ育成普及担当 シニアマネージャー
吉田 智彦	公益財団法人管川スポーツ財団 研究調査グループ長
渡邊 優子	総合型地域スポーツクラブ全国協議会 副幹事長

(令和3年1月13日付 JSPO「部活動改革に関する情報提供」資料から抜粋)

5

JSPO

講演Ⅱ【パネルディスカッション】

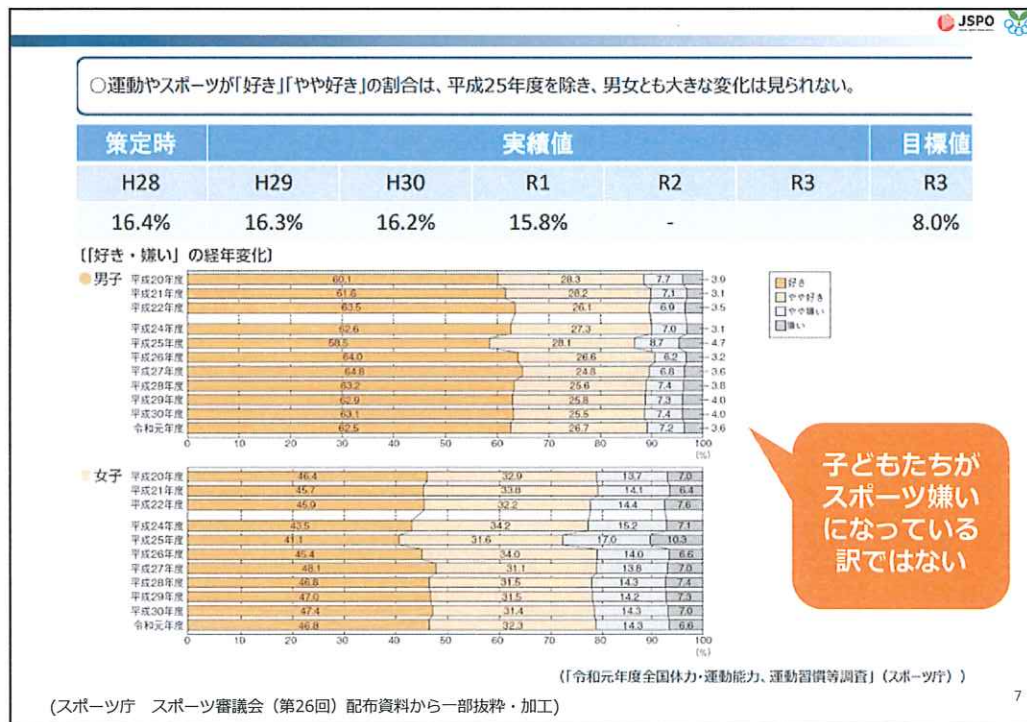
テーマ

「地域スポーツの取り組みについて ～運動部活動の地域移行について考える～」

パネリスト

- ・一般社団法人スポーツリンク白川 クラブマネジャー 渡辺 靖代氏
- ・仙台市立将監中学校 主幹教諭 高久 達央氏
- ・仙台大学 スポーツ局事務課スポーツアドミニストレーター 大友 健夫氏
- ・エスペランサ登米FC 指導者 木村 健喜氏

6



JSPO 

平成29年度スポーツ庁「運動部活動等に関する実態調査」より※

■ 学校の運動部や地域のスポーツクラブに所属していない公立学校の生徒が、「運動・スポーツを行う条件(複数回答)」について、

「友達と楽しめる」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに4割強

「活動時間が程良い」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに約3割

「指導がやさしく丁寧」、「同じレベルの人だけでできる」と答えた割合は、いずれも1～2割程度

H29	中学校(公立)			高等学校(公立)		
	全体 n 8,250	男子 n 2,038	女子 n 6,212	全体 n 12,744	男子 n 4,269	女子 n 8,475
1. 同じ競技レベルの人だけで活動できる	21.2	4.0	17.2	14.6	4.9	9.7
2. 勝ち負けにこだわらない	23.3	5.6	17.7	17.5	6.5	11.0
3. 生徒同士で活動計画を決められる	10.2	1.9	6.2	7.6	3.1	4.5
4. 活動時間が程良い	31.7	7.1	24.5	31.1	10.3	20.8
5. 指導がやさしく丁寧	26.6	5.5	21.1	16.9	4.6	12.1
6. 友達と楽しめる	46.8	9.8	37.0	44.6	14.1	30.5
7. どのような条件でも運動・スポーツは行いたくない	16.5	4.5	12.0	13.0	4.9	8.1

■ 学校以外のスポーツクラブに所属している公立中学校の生徒が、「学校の運動部活動を選ばなかった理由(複数回答)」について、


「部活動より競技レベルが高い」、「部活動より専門的な指導が受けられる」と答えた割合は、いずれも4割強

「部活動に行いたい競技種目がない」と答えた割合は、中学校・高等学校ともに3割弱

H29	中学校(公立)			高等学校(公立)		
	全体 n 1,500	男子 n 1,100	女子 n 400	全体 n 309	男子 n 142	女子 n 167
1. 部活動には行いたい競技種目がない	28.3	18.0	10.3	28.2	13.3	14.9
2. 部活動より競技レベルが高い	46.7	42.6	5.9	24.3	11.7	12.6
3. 部活動より専門的な指導が受けられる	43.0	36.4	6.6	23.0	11.3	11.6
4. 他の学校の友達と一緒にできる	25.3	18.3	7.0	12.3	6.5	5.8
5. 趣味などの他の活動と両立させられる	9.7	4.6	5.1	25.9	11.7	14.2
6. その他	23.9	15.7	8.2	25.2	13.0	12.3

(※スポーツ庁「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議(第4回)配付資料「資料1」より抜粋・加工)

8

JSPO 

スポーツ少年団が目指すべき姿

- ✓ **新しいジュニア・ユーススポーツのあり方**
ジュニア・ユーススポーツの理念に進化、名称変更の検討
- ✓ **総合型クラブ、中学校運動部活動等との連携**
人材不足の懸念 例) 教員の兼職・兼業制度の課題
⇒ **信頼される指導者の存在、卒団を防ぎ切れ目のない人材育成が**
ますます重要に
- ✓ **幅広い世代・多様な活動**
幼児受入促進 (ちびっこ少年団)、**JSPO-ACPの充実**

9



おわりに

“子どもたちの多様なニーズに応じたスポーツ活動や身体活動の受け皿”が
無くなりつつあるという危機感を持って
スポーツ少年団の改革にとどまらず
地域スポーツ体制の改革という視点で取り組んでいきましょう。

令和3年度 宮城県スポーツ少年団研修会

学校現場の立場から地域スポーツクラブに求める 中学校運動部活動との連携について

仙台市立将監中学校
主幹教諭 高久 達央

部活動の意義と課題

第1章 総則

第5 学校運営上の留意事項

1 教育課程の改善と学校評価，教育課程外の活動との連携等

ウ (略) 生徒の自主的，自発的な参加により行われる部活動については，スポーツや文化，科学等に親しませ，学習意欲の向上や責任感，連帯感の涵養等，学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり，学校教育の一環として，教育課程との関連が図られるように留意すること。

(略)

「中学校学習指導要領 平成29年3月から抜粋」

部活動の意義と課題

第3章 指導計画の作成と内容の取扱い

3 部活動の意義と留意点等

(略) 特に、学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、**生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高い**ことも指摘されている。

そうした教育的意義が部活動の充実の中のみで図られるのではなく、例えば、運動部の活動において保健体育科の指導との関連を図り、競技を「すること」のみならず、「みる、支える、知る」といった視点からスポーツに関する科学的知見やスポーツとの多様な関わり方及びスポーツがもつ様々な良さを実感しながら、自己の適性等に応じて、生涯にわたるスポーツとの豊かな関わり方を学ぶなど、教育課程外で行われる部活動と教育課程内の活動との関連を図る中で、その教育効果が発揮されることが重要である。(略)

「中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月から抜粋」

部活動の意義と課題

生徒を取り巻く社会・経済の変化等や教育に関する課題の複雑化・多様化による運動部活動の課題

- 練習の過熱化による生徒の健康保持増進や成長への悪影響
- 長時間の活動による生徒のバランスのとれた生活への悪影響
- 部活動の指導時間が教職員の長時間勤務の一因となっていること

これからの部活動

将来においても、全国の生徒が生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む基盤として、**運動部活動を持続可能なものとする**ためには、各自のニーズに応じた運動・スポーツを行うことができるよう、速やかに、運動部活動の在り方に関し、抜本的な改革に取り組む必要がある。

運動部活動を取り巻く環境等の変化

○教員になりたての頃

- ・生徒の意欲があり、家庭の理解が得られれば多くの時間を費やすことができた。
- ・教員、生徒共に週末は部活動という意識

運動部活動を取り巻く環境等の変化

○数年後

- ・ 平日1日， 土日1日をできるだけ休養日に設定
- ・ 大会の前等， 活動日が増えた場合にはその分をオフシーズンに休み， 年間を通じて上記の休養日となるようにする。

運動部活動を取り巻く環境等の変化

○全国的な運動部活動の改革

- ・ 平成30年3月
運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（スポーツ庁）
- ・ 平成30年10月
運動部活動の方針（仙台市）

仙台市の運動部活動の方針の策定に至るまでの経緯

- 競技団体への説明会
- アンケート調査の実施

生徒の皆さんへ
保護者の皆様へ

平成30年10月
仙台市教育委員会

学期中の平日の活動時間は・・・

2時間程度とします！

・中・高・大等校、新人大会等に向けて強化練習期間（ハイシーズン）を想定して、強化することができます。

学校の休業日の活動時間は・・・

3時間程度とします！

・学期中の週末、祝日、休日、長期休業日の平日も同様です。練習試合や大会参加の場合は、代替の休前日を設けます。

合理的でかつ効率的・効果的な運動部活動運営を目指します。

運動部活動を通して、「生きる力」を育み、心豊かでたくましい生徒を育てることを目指します。

運動部活動の方針を策定しました！

生涯にわたって心身の健康を保持増進することを目指します。

生徒のバランスのとれた心身の成長と充実した学校生活の実現を目指します。

学期中の休養日を・・・

週2日以上設けます！

・平日は少なくとも1日、週末（土曜日及び日曜日）は少なくとも1日以上を休養日とします。祝日、休日と同じ扱いとします。
・練習試合や大会参加等で活動した場合には、原則として他の週末に振り替えます。

長期休業中の休養日も・・・

週2日以上設けます！

・学期中に準じるものとし、原則として週末、祝日、休日、学校閉庁日を休養日とします。
・ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設けます。



運動部活動の二極化という課題【教員】

- ・ 自分自身で指導したい。
- ・ 部活動が生きがい。
- ・ 部活動を通して生徒を育てたい。
- ・ 休日も指導したい。
- ・ 自信をもって指導できる。
- ・ 指導を任せたい。
- ・ 部活動が大きな負担
- ・ 学級や生徒会活動等を通して生徒を育てたい。
- ・ 休日はプライベートの時間を過ごしたい。
- ・ 専門外の種目等の事情もあり指導に自信がない。

運動部活動の二極化という課題【生徒】

- ・ 部活動が大好き
- ・ 部活動がないと残念
- ・ 部活動の時間では物足りない。
- ・ 部活動以外の趣味
- ・ 部活動がないと嬉しい。
- ・ 部活動の時間で十分

地域移行に向けた仙台市の取組

- 休日の活動の受け皿となり得る団体等が存在するかを照会
 - ・スポーツ少年団や親の会等の可能性
- 他都市（全政令市）との情報交換
 - ・現行制度との整理や予算措置等の検討
 - ・スポーツ庁委託事業の推進
- ヒアリングや現地調査等の実施
 - ・慎重かつきめ細やかな対応が必要

部活動の地域移行に期待すること

- ・学校と地域が連携・協力して地域の子供を育成
- ・学校の働き型改革の推進
- ・熱心に活動したい生徒のニーズに対応
- ・専門性の高い指導
- ・小中一貫指導

部活動の地域移行の課題

- ・受け皿の地域格差
- ・平日と休日の連携
- ・保護者の費用負担
- ・日本スポーツ振興センター災害救済給付の適用外
- ・休日も指導したい教員の手続きの煩雑さ
- ・大会への参加
- ・運動部活動の方針の扱い

地域スポーツクラブに求めること

○スポーツ少年団とは…

- ・多くの人がスポーツ少年団でスポーツに出会う【入口】
- ・初めての指導者との出会い
- ・スポーツの魅力を知る場所
- ・指導者としてスポーツに再びかかわる場所

地域スポーツクラブに求めること

- 地域スポーツクラブの事情を考慮
- 休日の部活動指導を担う可能性がある貴重な場
- 学校、地域が連携・協力して地域の子どもを育成。
- 長年にわたって構築されてきた現在の仕組をこれから時間をかけて変えていくために協力していく大切な存在

国の大きな変革の中にいる当事者として共に歩んでいけるよう
今後ともよろしくお願いします。
ありがとうございました。

令和3年度 宮城県スポーツ少年団研修会

地域スポーツのとりくみについて
～中学校部活動とスポーツ少年団の連携～

令和4年2月27日

木村 健喜

宮城県スポーツ少年団研修会資料

- ・はじめに
- ・
- ・登米市内のサッカー部の現状
- ・登米市における土日のサッカー部活動の地域移行を考える
- ・移行のメリット
- ・移行のデメリット
- ・おわりに

宮城県スポーツ少年団研修会資料

令和3年度 宮城県スポーツ少年団研修会

地域スポーツのとりくみについて
～中学校部活動とスポーツ少年団の連携～

令和4年2月27日

木村 健喜

- ・はじめに
- ・
- ・登米市内のサッカー部の現状
- ・登米市における土日のサッカー部活動の地域
移行を考える
- ・移行のメリット
- ・移行のデメリット
- ・おわりに

はじめに

これまでの教育界の流れ

- 1996年に中央教育審議会が「学校のスリム化」の項目で運動部活動を地域社会に移行させる方向性を提示した。（第一次答申）
- 1998年に学習指導要領において、必修のクラブ活動は廃止された
- 2001年文部科学省通達において、「部活動も外部指導員の導入，地域社会との連携など，地域スポーツとしていくことも各学校の裁量で行えるようになった。

- 2008年文部科学省から出されたこの学習指導要領改訂において部活動も教育の一環として明記された。
- 現在の地域移行を見据えた中でも、教育の一環として位置付けるかどうか結論は出ていない。

エスペランサ登米FCの設立の経緯等

1998年エスペランサジュニアユース（中学年代）は、1996年の中教審の答申及びサッカー部のない中学校が登米市内に増えてきたことから、小学生でサッカーをしてきた子供たちの受け皿として設立。

2002年に、はさまサッカースポ少と中田サッカースポ少が合併して、ジュニアチームを結成。

2004年に社会人チームが発足。

現在の会員数

- ・小学生 約55人 ・中学生 約25人 ・社会人 約20人
- ・エスペランサ登米FCはスポ少とクラブチームの2面性スポーツ少年団の理念を实践しながら、地域のスポーツ振興も担う。

登米市内のサッカー部の現状

- ・登米市内にサッカー部が4 クラブチームが2
（1・2年生）

A中学校4名 B中学校11名 C中学校11名

D中学校17名

※D中学校のサッカー部はスポ少登録済

※登米市内の運動部員の約半数がスポ少登録済

登米市における土日のサッカー部活動の地域移行を考える

土日の部活動を地域移行するならば、受け皿となり得るのは、スポ少、クラブチーム、サッカー協会

・ スポ少登録していない3部活動を1団体で受け入れる方法をベースに検討。

・ 3部活動を1団体で受け入れる際のメリット

サッカーの指導資格を持った指導者が指導できるクラブチームと一緒に練習やゲームができる。
他校の生徒同士が交流できる。

・ 3部活動を1団体で受け入れる際のデメリット

練習会場の定期的な確保が必要
練習会場まで、遠くなる生徒が出てくる。
親の負担が出てくる可能性がある。（金銭的、送迎等）

おわりに

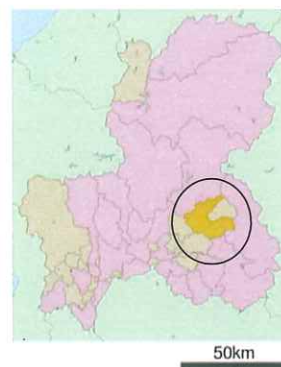
・4部活動のうち、1校は新1年生が入って来ないと単独での中体連出場が難しい状況。
地域移行を考えると、中学校の統合や部活動の存続の問題も深くかかわってくる。

「総合型クラブ」「体育協会」「スポーツ少年団」が一つになったクラブ

一般社団法人スポーツリンク白川 クラブマネージャー 渡辺靖代

【白川町はどんなところ？】

山紫水明の地・白川町は岐阜県の内陸に位置する中山間地域で、町内には5つの河川（飛騨川、白川、黒川、赤川、佐見川）がある。また「東濃ヒノキ」と「白川茶」の産地として知られている。人口は7600人でそのうち65歳以上の高齢者が46%を占め高齢化の進んだ町である。また、町内には小学校4つ、中学校3つがあり、少子化に伴い複式学級の編成もみられるなど、学校統廃合も町の課題となっている。



【設立までの経緯】

「スポーツリンク白川」は、白川町内にある総合型クラブ「チャオ白川スポーツクラブ（2008年2月設立）」「白川町体育協会」「白川町スポーツ少年団」（以下、スポ少）の3団体が一つになった総合型クラブ。それまでは、各組織がそれぞれ町から支援を受けて運営。「チャオ白川スポーツクラブ」は任意団体として、事務局を開設し“受益者負担”の考えのもと、スポ少が実施していない種目を中心に展開。また、高齢者のスポーツ活動の場として、「カローリング」「貯筋体操」や「ノルディックウォーキング」にも取り組み、体育協会と、スポ少は行政職員が事務局を担当し、各種目の大会運営は協会・団で行っていた。

少子高齢化が進み、町からの補助金が縮小傾向になる中、総合型クラブとスポ少に加入している子のスポーツ安全保険に二重加入を強いられる負担増や各団体のスポーツ行事をお互いが把握しておらず、イベント実施日が重なってしまったり、同じようなイベントが乱立したりといった理由や行政からの補助金の合理的な活用を図るため「スポーツ団体の1本化はできないか」という提案が出された。それに加え、2012年（平成24年）に開催された「ぎふ清流国体」の跡地である大野台パークグラウンド・体育館の管理をどうするかといった問題もあり、3つの団体を一本化する方向性が現実味を帯びてきた。

2013年（平成25年）4月、3つのスポーツ団体と町議会で懇談会を開き、今後の方針を決定。同年9月に「第1回白川町のスポーツ振興を考える会」を開催し、白川町のスポーツ環境の分析と展望、今後のスポーツ環境に関する地域住民の意見・要望を洗い出した。その後、メンバーを絞って団体連絡会議（平成26年9月）を開き、懸案のスポーツ安全保険の二重加入を解消すべく、スポーツ安全保険の総合窓口として、スポーツ団体「白川スポーツクラブ」（仮称）を立ち上げた。これにより、保護者の経済的負担が減り、白川町の子どものスポーツ加入率、および実施率を明確に把握できるようになった。当時のスポーツ加入率は70.5%。これを将来90%にすることが、設立準備委員会の目標にもなり、そして、クラブの正式名称を決定することになり、「スポーツリンク白川」という名前がつけられた。「リンク」には“つなぐ”という意味があり、3つの団体を“つなぐ”ことで、白川町のスポーツ活動を盛り上げ、「スポーツ」を通じて人と人を“つなぐ”ことで、地域が元気になるように・・・という思いが込められて

いる。

「第1回白川町のスポーツ振興を考える会」の開催から4年の時を経た2017年（平成29年）3月5日、「一般社団法人スポーツリンク白川」が誕生。クラブの理念は、スポーツでつなぐ「地域」と「人」と「夢」。それと同時に、大野台パークグラウンドと体育館、その他の2施設を指定管理者となることが決定した。



一般社団法人スポーツリンク白川設立記念式典の様子

【クラブ運営と役割】

クラブは白川町の町民会館に事務所を構え、3人体制で事務を行っている。館内には町の教育委員会と保健福祉課があり、行政との連携・協力や情報共有を行うには最適な場所である。今後、行政との連携を図るには、白川町の地域課題やスポーツの現状を把握し、行政が「スポーツリンク白川」に求めるものを、スポーツを通じて具現化させていくことがクラブの役割ではないかと思っている。少子化に伴い、スポ少の団員数も減少。その中で、団の統合や活動拠点の集約は避けられない状況である。そんな中、スポ少としてではなく、クラブの1サークルとして活動することや“交流”という形で試合が行える場を提供するなど、子どもたちのスポーツ環境を整え、活動の幅を広げていくことが、クラブとスポ少が1つになったメリットではないかと考える。



誰でも参加OKのバレーボール体験教室、指導は中学生

【中学校部活動との連携】

話は23年前に遡る。クラブがある白川町には3つの中学校(白川・黒川・佐見)があり、「白川中学校」の生徒や保護者から「通常の部活動以外にも活動したい!」「もっと練習させたい」といった要望があったため、部活動の終了後に「延長部活」を実施していたが、事故やトラブルが起きた際、責任の所在を明らかにできないことから「チャオ白川スポーツクラブ」(現「スポーツリンク白川」)が「延長部活」を引き継ぐことになり(14年前)、「スポーツリンク白川」が設立されるまで、白川中学校と連携で部活動を運営してきた。

クラブには地域と保護者が子どもたちの活動を支える「部活動育成会」という組織がある。現在、白川中学校の全生徒は「スポーツリンク白川」のクラブ会員として、保護者会の推薦を受けた社会人指導者(学校とクラブの承認を得て委嘱。謝金は各部活動が支払う)の指導・助言で「スポリン(活動の総称)」に励んでいる。

活動にあたっては、保護者会会長から「スポーツリンク活動計画書」を毎月提出していただき、スポリンの活動が過度にならぬよう学校とクラブの承認を得て進めている。「部活動育成会」は年2回(4月・9月)開催しており、各部保護者会長、社会人指導者、顧問、学校長、クラブ代表者を集めて、活動計画やクラブの報告事項をはじめ、活動規約の見直しなどを行っている。さらに、顧問や社会人指導者の指導方針をヒヤリングし、部活動が行き過ぎないようにクラブが指導し、保護者間の活動に対する想いを共有する場としている。

白川中学校の過去の実績として、ソフト部全国大会出場、男子バレー部東海大会出場など、小規模学校でありながらの輝かしい成績を残すことができたのは、地域とクラブの連携があったからこそではないだろうか。

【廃部からのクラブチーム立ち上げと今】

少子化は中学校の部活動数の減少にも影響し、2018年度(平成30年度)の夏をもって、ソフトボール部は廃部、翌年の夏をもって、男子バレーボール部も廃部となった。部活動としては廃部という選択になったが、スポーツ少年団もあることから、地域には活動を続けたいと思う子や存続を願う小学生保護者多く、そこで、クラブチームを作ることをクラブと地域の目標に掲げた。学校の理解のもと、今まで使用してきた道具はそのまま利用可能の許可をいただき、2018年8月にソフトボールチーム「BLAZE(ブレイズ)」、2019年(令和元年)8月に男子バレーボールチーム「白川ネクサス」が誕生した。

現在、ブレイズは近隣の中学校と合同チームとして活動している。平日は白川町内で、土日に合同相手の拠点グラウンドで練習をしている。ネクサスは、白川中学生の他に、近隣中学生と小学生(6年生のみ)も活動に参加している。スポーツリンク白川の所属であれば、町内外問わず活動が出来、小・中学生と一緒に活動することも可能である。



ソフトボールチーム「BLAZE」



男子バレーボールチーム「白川ネクサス」

【廃団からのサークル立ち上げ】

町内に5団あったバレースポーツ少年団は、少子化により2014年（平成26年）に1団減り、2017年（平成29年）、2018年（平成30年）に2団が減る。廃団後は、クラブのバレーサークルとして親子でもできる環境として継続。また、2017、18年に廃団となったチームは、現在、町内の別の団体と合同チームとして活動を継続中。

剣道においても2団あった活動が、2017年に1団廃団、そして、2020年（令和2年）に残っていた1団も所属児童が2名になったことで廃団。その後、子どもから一般まで誰でも参加できる剣道サークルとして活動している。

少年団交流として、年に1回スポーツテスト記録会と、軽スポーツ交流会を行っている。

町内には現在、バレーボール2団、ソフトボール1団で活動している。



軽スポーツ交流の様子



スポーツテストの様子

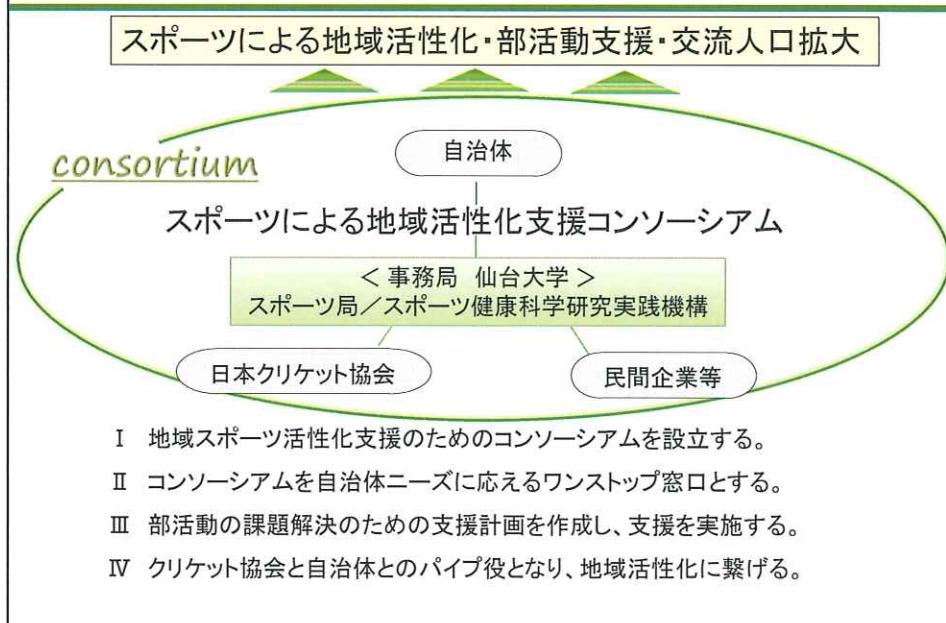
【今後のクラブの展開】

子どもたちに、スポーツ環境を残すことが何よりの目標。少年団活動や、総合型クラブのサークル活動など、複数の種目が体験できる場づくりや、自然体験やイベントなどスポーツにとらわれず、子どもたちがやってみたい！と思える企画を続けていきたい。そのためには、スポーツリンク白川だけでなく、行政はもちろんのこと、地域の企業の支援、学校や保護者の理解・協力が不可欠である。白川町から巣立った子どもたちが、故郷を思い、いずれ帰ってこられる環境を残していくことが、今の大人のやることだと思う。子どもから高齢者まで、地域住民に愛されるスポーツ団体として自立を目指し、地域づくり、まちづくりに寄与することが「スポーツリンク白川」の使命だと思っている。

令和3年度 宮城県スポーツ少年団研修会

仙台大学 スポーツ局事務課
スポーツ・アドミニストレーター 大友 健夫

仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム事業概要図



宮城県スポーツ少年団研修会 参加者名簿

【 来場者 】

No.	参加者氏名	所属チーム・クラブ	チーム・クラブでの役割	参加区分
1	齋藤 信	FC黒川大和	指導者	少年団関係者
2	千葉みゆき	岩沼ジュニアランニングクラブ	指導者	少年団関係者
3	桑折 洋美	松森ミニバスケットボール同好会	親の会（保護者）	少年団関係者
4	阿部 亜紀	松森ミニバスケットボール同好会	親の会（保護者）	少年団関係者
5	小野寺 賢	志波姫剣道	指導者	少年団関係者
6	塩田 智美	高館ミニバスケットボールクラブ	親の会（保護者）	少年団関係者
7	笹谷 匠	袋原スポーツ育成会	親の会（保護者）	少年団関係者
8	北浦 康行	大沢野球スポーツ少年団	指導者	少年団関係者
9	石川 純則	大河原スポーツ少年団	本部長	少年団関係者
10	氏家 透	大崎市体育協会岩出山支部	事務局	少年団関係者
11	村上 文江	宮城県スポーツ少年団バスケットボール協議会	副会長	少年団関係者
12	菅原 淑江	宮城県スポーツ少年団バスケットボール協議会	総務	少年団関係者
13	佐藤 田鶴子	宮城県スポーツ少年団バスケットボール協議会	副会長	少年団関係者
14	松浦 正芳	宮城県スポーツ少年団バドミントン	会長	少年団関係者
15	宍戸 浩文	宮城県スポーツ少年団ラグビー協議会	ジュニア・ミニ委員長	少年団関係者
16	佐藤 伸光	宮城県スポーツ少年団野球協議会	会長	少年団関係者
17	鴨田 芳男	宮城県スポーツ少年団野球協議会	事務局長	少年団関係者
18	郡山 孝幸	宮城県スポーツ少年団	本部長	少年団関係者
19	紺野 芳彦	宮城県スポーツ少年団	副本部長	少年団関係者
20	吉田 尚	宮城県スポーツ少年団	副本部長	少年団関係者
21	鹿野 有三	宮城県スポーツ少年団	副本部長	少年団関係者
22	守屋 守武	宮城県スポーツ少年団	常任委員長	少年団関係者
23	只野 良子	宮城県スポーツ少年団	常任副委員長	少年団関係者
24	佐々木 牧江	宮城県スポーツ少年団	常任委員	少年団関係者
25	高橋 安治	宮城県スポーツ少年団	常任委員	少年団関係者
26	山崎 健二	宮城県スポーツ少年団	常任委員	少年団関係者
27	高山 光義	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営委員長	少年団関係者
28	田原 龍子	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営副委員長	少年団関係者
29	作間 良史	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営副委員長	少年団関係者
30	曾根とも子	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営委員	少年団関係者
31	杉本 龍司	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営委員	少年団関係者
32	今野 淳	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営委員	少年団関係者
33	小野目 清	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営委員	少年団関係者
34	大沼 良介	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営委員	少年団関係者
35	岩渕 礼子	宮城県スポーツ少年団指導者協議会	運営委員	少年団関係者

【オンライン参加者】

No.	参加者氏名	所属チーム・クラブ	チーム・クラブでの役割	参加区分
1	佐藤 広章	Bクラブ	指導者	学校関係者
2	高間 章	聖和学園短期大学	指導者	学校関係者
3	本田 智子	NPO法人アクアゆめクラブ	クラブマネージャー	クラブ関係者
4	仙國 愛	文化・スポーツクラブはさま	事務局	クラブ関係者
5	阿部 俊之	涌谷町総合型地域スポーツクラブ	指導者	クラブ関係者

No.	参加者氏名	所属チーム・クラブ	チーム・クラブでの役割	参加区分
6	三塚 博幸	涌谷町総合型地域スポーツクラブ	事務局	クラブ関係者
7	後藤 道子	南光台東エンジョイ倶楽部	代表	クラブ関係者
8	長谷川瑞江	南光台東エンジョイ倶楽部	事務局	クラブ関係者
9	亀井あゆみ	~いきいき健康づくり~スポーツクラブみなみかた	クラブマネジャー	クラブ関係者
10	馬場さおり	角田市本部	事務担当者	少年団関係者
11	井上 眞弘	角田市西根陸上	指導者	少年団関係者
12	杉山 洋治	館腰ブラックホークス	指導者	少年団関係者
13	笠原 良治	岩出山ジュニアバスケットボール	指導者	少年団関係者
14	八嶋 良雄	宮床こぼと	指導者	少年団関係者
15	齋藤 誠	桜ヶ丘キラーズ	親の会（保護者）	少年団関係者
16	千葉 光代	寺岡男子ミニバス	指導者	少年団関係者
17	長濱千賀子	寺岡男子ミニバス	親の会（保護者）	少年団関係者
18	佐々木 裕	鹿又ベースボールクラブ	指導者	少年団関係者
19	伊藤 純也	鹿又ベースボールクラブ	指導者	少年団関係者
20	佐藤 基良	鹿又ベースボールクラブ	指導者	少年団関係者
21	亀谷 昌義	秀練会逢隈道場	指導者	少年団関係者
22	佐藤 誠一	女川柔道	指導者	少年団関係者
23	高橋 直樹	小野田中学校野球スポ少	指導者	少年団関係者
24	菊池 規子	松島水泳	親の会（保護者）	少年団関係者
25	桶本あゆ美	松島町水泳	親の会（保護者）	少年団関係者
26	和田 松雄	上杉スワローズ	指導者	少年団関係者
27	佐野 浩之	水泳協議会 会長	指導者	少年団関係者
28	鈴木 克範	石巻剣道連盟	指導者	少年団関係者
29	水上ゆう子	仙台空手道クラブ志道館	親の会（保護者）	少年団関係者
30	藤田 智恵子	仙台原町サッカー	親の会（保護者）	少年団関係者
31	大友 恭子	泉クラブ	親の会（保護者）	少年団関係者
32	渡邊加奈子	泉クラブ	親の会（保護者）	少年団関係者
33	藤原 幸子	船迫チェリーズバレーボール	指導者	少年団関係者
34	田中 知美	太白サッカー	親の会（保護者）	少年団関係者
35	玉川 絢子	袋原スポーツ育成会バスケットボール部	親の会（保護者）	少年団関係者
36	伊藤 元気	台原サッカー	指導者	少年団関係者
37	佐藤 正直	大和町スポーツ少年団	事務局	少年団関係者
38	吉野 寿美	東仙台ミニバスケットボールクラブ	親の会（保護者）	少年団関係者
39	佐々木里奈	東仙台ミニバスケットボールクラブ	親の会（保護者）	少年団関係者
40	横山 新作	美里町	本部長	少年団関係者
41	井上 知治	美里町	副本部長	少年団関係者
42	木内 恵子	美里町	事務局	少年団関係者
43	小幡 実	利府クラブJH	指導者	少年団関係者
44	千葉 善浩	寺岡ブラザーズ	親の会（保護者）	少年団関係者
45	阿部 達也	涌谷町スポーツ少年団	事務局	少年団関係者
46	菊池 美智	わたりミニバスケットボール愛好会	親の会（保護者）	少年団関係者
47	太田絵梨香	わたりミニバスケットボール愛好会	親の会（保護者）	少年団関係者
48	土生和加子	わたりミニバスケットボール愛好会	親の会（保護者）	少年団関係者
49	西田 信子	宮城県スポーツ少年団バスケットボール協議会	副理事長	少年団関係者
50	尾形 清人	東松島市	本部長	少年団関係者
51	鎌田 純子	東松島市	事務局	少年団関係者
52	岡田 彩	東松島市	事務局	少年団関係者
53	佐々木 茂	石巻剣道連盟	指導者	少年団関係者



宮城県スポーツ少年団

- 一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する
- スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる
- スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する



•地域スポーツを楽しもう！